

まごだ

孫田遺跡

所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 30 秒
東経 137 度 19 分 38 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 6 月～平成 23 年 8 月

調査面積 1,000 m²

担当者 鵜飼雅弘・本田英貴・石井香代子



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

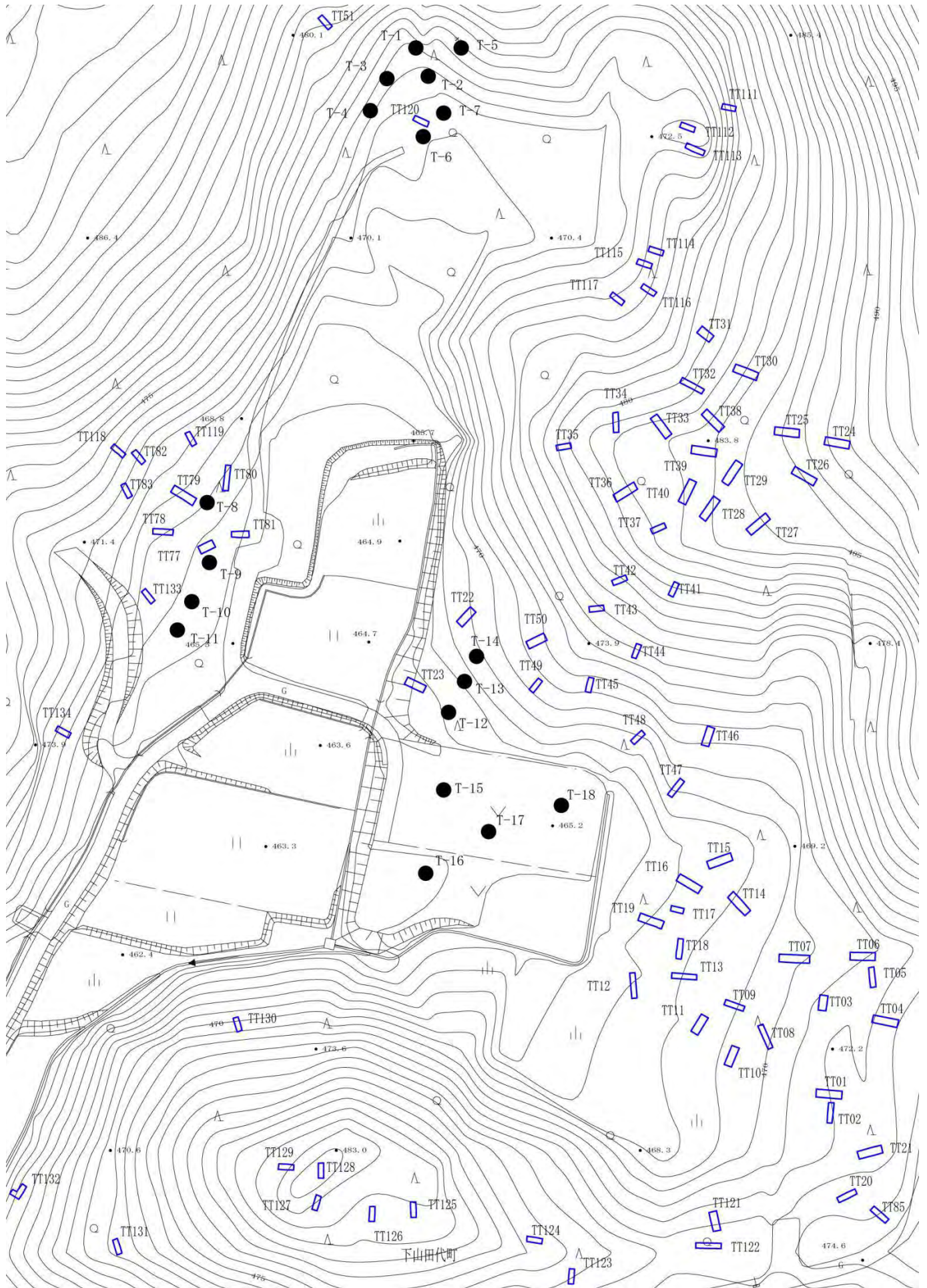
調査の経過 孫田遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 孫田遺跡は南に開口する谷とその谷に合流する東西方向の谷、それらを取り巻く丘陵部分から成る。平成 19、20 年度の分布調査で山茶碗が、平成 22 年度の試掘調査では南北谷に面する東緩斜面に設定した T-8～10 で灰釉陶器や土師器甕を伴う古代の土坑状遺構を検出している。

調査の概要 調査では緩斜面と丘陵頂部の平場を中心に 83 箇所の試掘坑を設定した。なお、TT52～76、84、86～110 は字丸山に属する試掘坑が多く、一括して丸山遺跡として扱った方が今後の遺跡の検討をする上で必要と考えられたため、これら 51 カ所のトレンチは丸山遺跡の報告書に掲載している。

T-8～10 の周辺に TT77～83、118、119、133 を設定した。ここは谷に近く、TT81 では試掘坑底で水が湧き出す。TT133 でピットと土坑、TT82 では時期不明の窯跡を検出し、TT77 でやはり時期不明の土師器が出土している。試掘や今回の調査結果から、この緩斜面地では古代から中世を中心とした土地利用があったとみられる。緩斜面地の周囲では包含層となる層が薄くなることから、遺跡の範囲は南北 60m、東西 30mほどの場所に限られる。

他の場所では、確実な遺構の検出や包含層に伴う遺物の出土はなく、遺跡と認められなかった。
(本田英貴)



孫田遺跡トレンチ位置 (1/1000)

つるがいけ

鶴ヶ池 遺跡

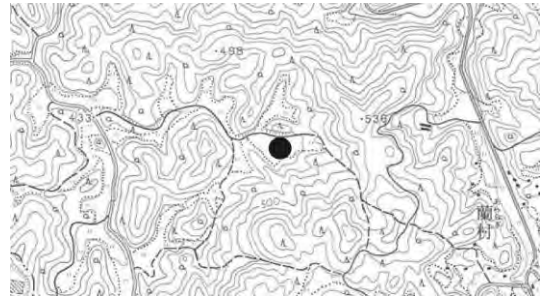
所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 38 秒
東経 137 度 19 分 39 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 7 月～平成 23 年 8 月

調査面積 600 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 鶴ヶ池遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

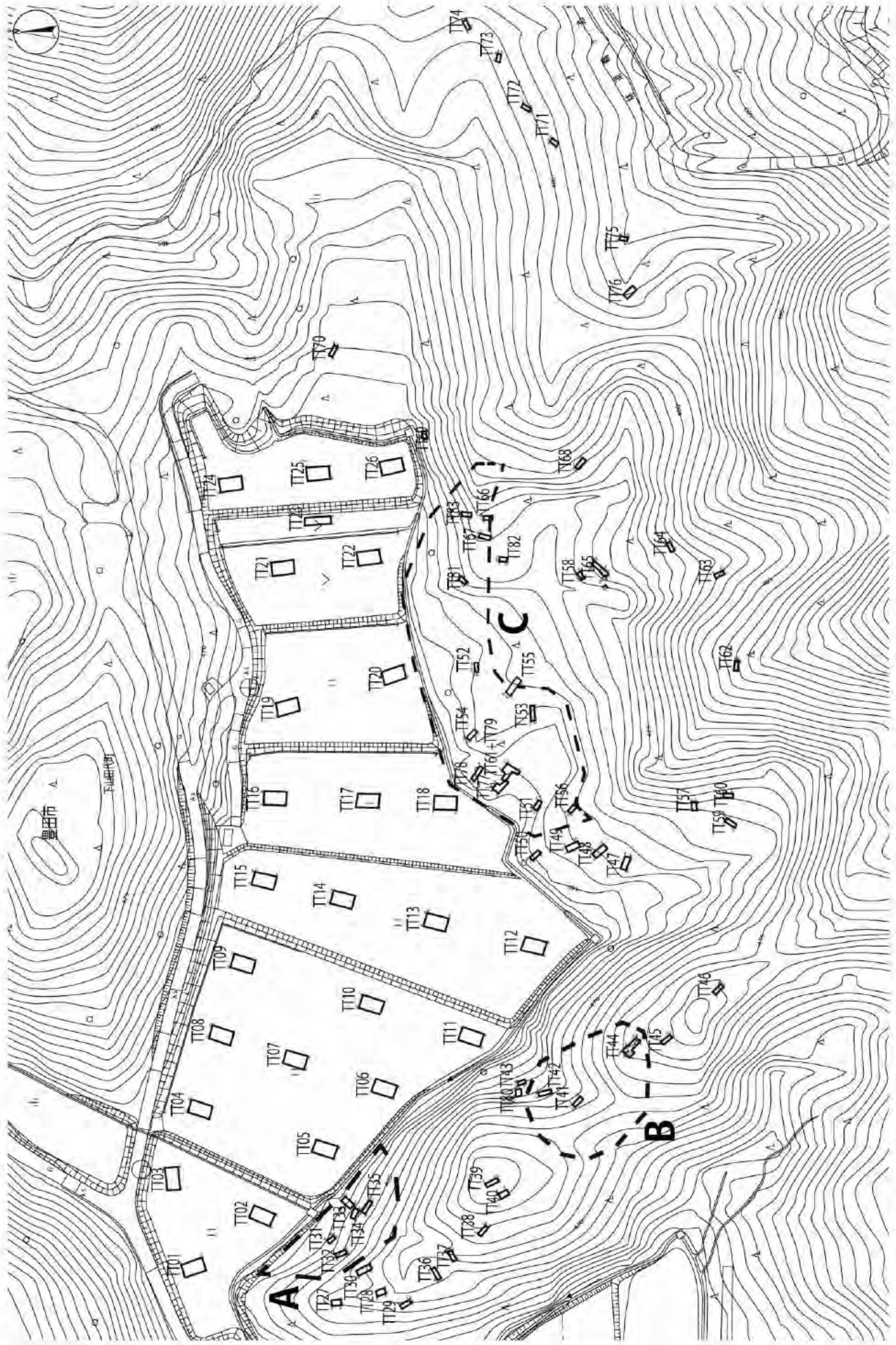
立地と環境 鶴ヶ池遺跡は旧耕作地に面する尾根上に立地している。現在の標高は海拔約 460～470m 前後である。周辺の遺跡としては、尾根を挟んだ南側に栗狭間遺跡、北西にコヤバ遺跡、北東に孫田遺跡が位置している。

調査の概要 試掘坑は旧耕作地と、それに面する尾根上に 83 ヶ所 (TT01～TT83) 設定した。このうち遺跡の広がり確認出来たのは、水田の南側にある南東から北西方向へと広がる谷部 (地点 C) と、南西の尾根鞍部からその斜面にかけて (地点 B)、更に西の尾根先端の裾部分 (地点 A) の 3 カ所であった

地点 A 地点 A では、沢の流路と考えられる部分に沿って黒色土の広がりを確認した (TT52、TT58、TT68 で黒色土を検出)。遺物は TT67 で出土した炭窯の灰原から縄文土器が、遺構は TT65 から土坑 1 基と TT66 から炭焼窯 1 基が見つかった。

地点 B 地点 B では尾根の中央部の TT44 で土坑を 4 基検出した。TT44 からは、縄文土器・灰釉陶器が出土しており、遺物を伴う遺構面が尾根上の平場である TT41・TT42 付近にも広がると考えられる。

地点 C 地点 C の西の尾根先端の裾部分に設置したトレンチ (TT32・TT33) で黒色土が認められたが、遺物は出土しなかった。(奥野絵美)



種ヶ池遺跡トレンチ位置図 (S = 1:900)

かきねだ
柿根田遺跡

所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 35 秒
東経 137 度 18 分 39 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成

調査期間 平成 23 年 8 月～平成 23 年 9 月

調査面積 750 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 柿根田遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

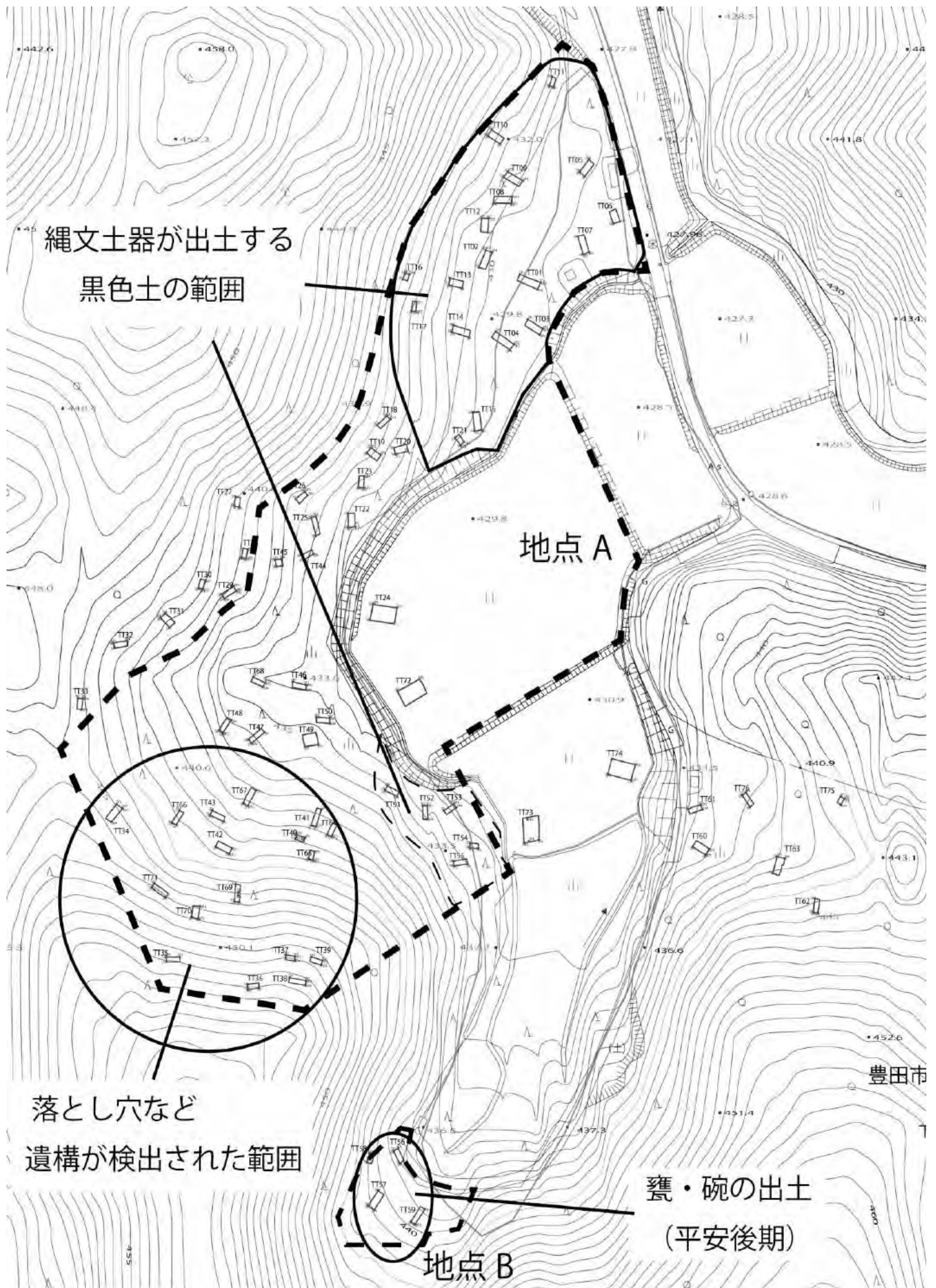
立地と環境 遺跡は谷間の旧耕作地と山林に立地しており、現在の状況は水田及び山林である。現在の標高は海拔 430～450m 前後である。

調査の概要 試掘坑は 89 カ所 (TT01～TT89) 設定し、範囲確認調査を行った。調査の結果、柿根田遺跡の範囲は、遺跡の南北に広がる平場を中心とした地区 (地点 A) と、遺跡の南に位置する谷の奥の平場 (地点 B) の 2 地区であることを確認した。

地点 A 地点 A では TT01～TT16、TT21 付近に、平成 22 年度の試掘調査で縄文時代早期～後期の縄文土器が出土した黒色粘質土層が堆積していることが明らかとなった。遺構は TT34・TT37 から、陥し穴を 1 基ずつ検出した。また、TT41 からは土坑 3 基、TT42 から土坑 5 基 (TT42) を検出した。これらの遺構を検出した褐灰色～灰黄褐色層は、遺跡南西部の尾根上から遺跡の西部に広がる平場にかけての斜面部に設置したトレンチ (TT34～TT43、TT65～70) で確認されており、この範囲に遺構が広がる可能性が指摘できる。遺物は TT48 からは土師質鍋、TT68 からは近世の陶器が出土している。

地点 B 地点 B では、TT57 から中世後期の土師器鍋が良好な状態で出土した。この土師器鍋が見つかった黒褐色シルト層は、平場に設置した TT57～59、TT84～86、TT88 でも認められており、この付近一帯が遺跡の範囲であると推定出来る。

(奥野絵美)



柿根田遺跡トレンチ位置図 (S=1:900)